

根室市地域公共交通計画の方向性

現状・問題点

人口	人口減少・少子高齢化 ・R2年には25,000人を下回り、減少し続ける予測 ・R2年には高齢化率35%で、将来は増加する予測
都市構造	人口分布 ・市街地中心部に人口が集中 ・市街地中心部に高齢者が点在 施設分布 ・市街地に施設が集中 ・花咲港、厚床、歯舞地区にも施設が立地 ・納沙布岬をはじめとした観光施設は広域に分散
公共交通実態	路線バスの役割 ・市内の地域と市街地間の移動手段として機能 ・都市間バスは市外との移動手段として機能 路線バス・JR利用者の低迷 ・路線バス利用者、根室駅の乗降客数は減少傾向 ハイヤーの役割 ・市内の移動として自由度の高い公共交通 JRの役割 ・地域間の広域的な移動手段として機能
移動支援	公的資金投入額の増加 ・優待乗車券事業等の独自の移動支援策も実施 ・移動支援に係る補助金額は年々増加しておりR3年には1.9億円
ヒアリング調査	路線バス運行への要望 ・乗客からの現在運行していない公共交通空白地域での運行の要望 旅行者への支援 ・路線バスではSNSの利用が効果的に作用 バス・ハイヤー会社の人員不足・高齢化 ・交通事業者では運転手の不足・高齢化が深刻 モード間の連携の可能性 ・路線バス・JR共に連携施策を模索
アンケート	高齢者のための交通の確保 ・免許返納後にはバス・タクシーを利用する意向 ・年齢が増すほど買い物にバス・タクシーを利用 ・年齢が増すほど通院にタクシーを利用 郊外と市街地を結ぶ交通の確保 ・どの目的においても目的地は根室市街地が多い ・デマンドバスの利用意向が高く、具体的検討が必要
乗降調査	市街地を走る路線 ・1便当たりの乗車人数が10.0人を超えている ・各地区から市街地中心部への利用が多数 郊外を走る路線 ・厚床線は利用者数が著しく小数 ・納沙布線は旅行者の利用が4割と多い ・中標津線、空港線は根室市内の利用は小数 ・釧路線は通院利用が3割 ・時間帯によって利用者が0人の便がある

課題の整理

市街地を走る路線バスの効率的な運行 ・市街地を走る路線バスは、通勤・通学、買い物で利用されており、利用実態に合った便数、時間帯の調整により、更に利用しやすい公共交通の実現が必要
郊外と市街地を結ぶ交通の検討 ・郊外からも根室市街地へ買い物・通院へ行っている状況である一方、利用者が減少しているため、公共交通空白地域への運行など、ニーズにあった公共交通の運行が必要
生活に合ったバスの再編の検討 ・路線バスについては路線、時間帯によって利用者が著しく少ない便があり、時間帯、ルートについて見直しなど、高齢者等の交通弱者支援に資する検討が必要 ・予約運行の利用意向が高く、現在バスが運行していないエリアからの利用意向の声もあるため、予約運行型バスの検討が必要
運転手不足を解消するための施策の検討 ・バス・ハイヤー会社では運転手が高齢化・不足しており、より効率性の高い公共交通の確保・維持のための施策が必要
JRの維持・利用促進の検討 ・市外からのアクセスで欠かすことのできない交通手段の維持 ・利用者を増加させるための取組の増加
ICTを活用した一体的な取り組み実施 ・路線バスではSNSを利用したプロモーションが好評であり、更なる利用促進のため、ICTの活用が必要 ・バス事業者・JRの両者が連携した利用促進を進める必要があると感じていることから、一体的な利用促進策の展開による円滑な移動支援
わかりやすい情報提供 ・根室市内には路線バス10路線、タクシー3社、JRが運行していることから、それら交通手段について、高齢者でも利用しやすい環境づくりが必要

基本方針

子どもと高齢者にやさしく持続可能な公共交通体系の構築

基本目標(施策イメージ)

基本目標 1 市内の公共交通体系の見直しによる移動の足の確保・維持 ・市街地のバス路線・ハイヤーの見直しとして、デマンド型、路線ではなく区域での運行、ICT技術の活用など、公共交通空白地域等への新たな公共交通体系の検討 ⇒デマンド交通による市街地移動の利便性向上実験 ・郊外線ニーズに即した新たな運行ルートや選択と集中による運行形態等の交通弱者を支える公共交通体系の見直し検討 ⇒落石地区における高校・病院直通バス運行による利便性向上実験 ・乗降環境の改善による安全で安心な環境の構築 ⇒商業施設・医療施設における公共交通乗降環境の改善 ⇒広域交通との接続性に配慮した運行時間や乗り継ぎ環境の改善
基本目標 2 利用者と運転手の確保等による持続可能な公共交通体系の維持 ・総合的な情報発信による路線バス、ハイヤー、JR花咲線などの利用者数の確保による公共交通サービスの維持 ⇒バスマップや公共交通チラシの作成など ・AIデマンド交通、MaaS、バスロケーションシステムなど、ICT技術の活用による効率的で効果的な輸送体系の検討 ・住民や交通事業者、関連事業者などとの意見交換会や説明会等による継続的なニーズ把握と改善方策の検討 ・18歳以下の公共交通の無償化、遠距離通学費の助成など、利便性の高い公共交通サービスの継続・検討
基本目標 3 広域交通に係る公共交通の確保・維持 ・利用の少ない路線の再編も含めた見直し検討 ⇒中標津線の再編など ・JR花咲線の維持に向けた改善方策の検討 ⇒市内線の乗継等の連携 ・企画乗車券や乗継割引等による利用者確保の検討 ⇒路線バス等に係る予約運行や1日乗車券などICT技術を活用した持続可能な公共交通体系の構築 ⇒路線バスとJR花咲線の相乗効果に資する一体的な利用促進 ⇒JR花咲線における旅行者への継続と新たな取組みの検討